



大聖寺城



本丸（主郭）櫓台には石垣が残る

所在地：石川県加賀市大聖寺地方町・錦町
 別称：錦城
 立地：尾根頂部、標高67m
 城主：一向一揆、越前朝倉氏、戸次右近広正・佐久間盛政（織田信長家臣）、拝郷五左衛門家嘉（柴田勝家家臣）、溝口秀勝（羽柴秀吉家臣）、山口宗永（小早川秀秋家臣）、前田氏
 時期：南北朝、戦国
 見学時間（参考）：50分～1時間30分

江戸時代は古城山といった通称錦城山に占地する。江沼盆地の西端にある丘陵で、北に大聖寺川が流れ、加



東丸登城口

賀・越前国境を通る北陸街道と吉崎道に近い水陸交通の要衝に位置する。「太平記」の建武2年（1335）中先代の乱に「大聖寺ノ城」と登場するのが初見である。戦国期に入り加賀一向一揆の拠点となり、弘治元年（1555）越前朝倉氏が加賀に進攻して攻略し、永禄10年（1567）足利義昭の調停で朝倉方の一城として破却されたことが「加越闘諍記」に記される。



本丸北東虎口
二重柵形虎口（下段）

天正3年（1575）織田信長軍が加賀に進攻し、家臣の戸次右近や佐久間盛政が入城、天正8年の加賀国制圧の頃、柴田勝家の家臣拝郷五左衛門が入城する。天正11年（1583）賤ヶ岳合戦後に丹羽長秀の与力として入城した溝口秀勝は慶長3年（1598）越後新発田に移封され、小早川秀秋の家臣山口宗永が入城、関ヶ原合戦では西軍として東軍の金沢城主前田利長と戦い落城した。前田氏は修築して城代を置いたが元和の一国一城令で廃城となる。江戸時代、一般人は入山禁止とするお止め山であったため貴重な織豊系城郭が残されることになった。



鐘ヶ丸西側に大土塁が残る



戸次丸に段状の曲輪が残る



戸次丸尾根続きの豎堀

いしかわ城郭カードに関する最新情報・お問い合わせ
 北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）
 〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9
 TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943
 E-MAIL. contact@j-sampo.com
 ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>